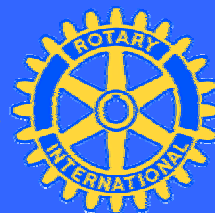


創立 1958年2月14日
承認 1958年3月7日

台北陽明扶輪社



TSUCHIURA WEEKLY REPORT

会長 鈴木 實 幹事 円城寺 絃征 【URL】 <http://www.tuchiura-rc.org> 【E-mail】 office@tuchiura-rc.org
事務局：土浦市中央2-16-9（常陽銀行4F） 【TEL】 029-822-1250 【FAX】 029-824-8830

2006年～2007年度 国際ロータリーのテーマ



可憐なコスモス

RI（国際ロータリー）の創立：1905（明治 38）
日本のロータリー創立：1920（大正 9）

RI 会長
ウィリアム・ビル・ボイド

率先しよう

（LEAD THE WAY）

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

2006～2007年度

10月第4例会プログラム 10月26日（第2404回）

点鐘
ロータリーソング
ビジター紹介
幹事報告
委員会報告
会食
卓話

にこにこBOX
出席報告
点鐘
ロータリーソング

会長
四つのテスト
親睦活動委員会

「訪台団報告」
河合 隆 会員・鶴田 一郎 会員

S.A.A
出席委員会
会長
それこそロータリー

格調高く、和やかに

10月は職業奉仕月間及び米山月間です。

VOL. 16

先週の例会報告

1. 卓話「奉仕の心は循環する」 職業奉仕月間に当たって

RI 第2820地区職業奉仕総括委員長 作山 吉永氏

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (They profit most who serve best)」
アーサー・シェルドン

はじめに

『職業奉仕』とは、ロータリーが生み出した思想です。職業奉仕は、共存共栄の哲学であり、成功繁栄の実践原理です。

職業と奉仕は正反対のベクトルを持った全く異なる活動に見えますが、ロータリーは、「職業は奉仕の機会」と考えます。

職業活動の中で奉仕を行うのです。そしてそれは利益となって自分に還ってくる、と考えるのです。一体どうすればそんなことが可能になるのでしょうか。それを理解するには、まずロータリーの奉仕を理解する必要があります。



(1) ロータリーの奉仕

一般的に奉仕とは、「他人のため、あるいは社会のために役立つことをすること」と捉えることができるでしょう。その幅は広く、市民の清掃奉仕から自分を犠牲にしてでも他に尽くす人生まで、その形は様々です。奉仕とは、自分から他者に向けられた『善意の実践』と行うことができるでしょう。しかし、ロータリーが考える奉仕は、それだけではないのです。

冒頭に掲げたアーサー・シェルドンのことばに拠れば、「奉仕する者は報われる」のです。つまり、他者に向けた善意は自分に還ってくるのです。そうだとすれば、奉仕とは、他人のためだけでなく、自分のためでもあるのです。他人と自分と、双方の利益になることが奉仕である、と、そうロータリーは考えるのです。このような考え方は、ロータリーだけの専売特許ではありません。洋の東西を問わず賢哲の教えとして社会に生きています。

聖書の黄金律として有名な「何事も人々からして欲しいと望むことは、人々にもその通りにせよ (マタイ伝)」は、ロータリーでもよく例に引かれる金言です。仏教でも、布施は自分の功德を積むことであると説いています。また「情けは人のためならず」という日本のことわざもあります。このような考え方の根底には、この世界のすべての事物は何らかの形でつながっていて循環している、という思想があることが分かります。仏法の諸法無我や、今日言うところのエコロジーやガイアの思想と同様です。

ロータリーの先哲は、あるいはキリスト教の影響を受け、あるいは職業上の体験から、またあるいは社会活動の様々な事象を通してこの法則を洞察したのです。そして、奉仕、すなわち善意の実践は波紋のように社会に広がり、やがて有形無形に自分の利益となって還ってくることを発見しました。すなわち「奉仕の心は循環する」のです。この実践原理を『奉仕の理想』と呼び、ロータリー運動の基本理念としたのです。この考え方は、他と争うことよりも、むしろ他と調和し友愛を深める要素に満ちているため、地域社会の協調から世界の平和にまで貢献できる可能性を持っています。

ロータリーが有力な賛同者を求め続ける、すなわち増強活動を行う根本的な理由がここにあり、またロータリー思想を運動として社会に展開する意義がここにあるのです。

(2) 職業奉仕

「他のために尽くすことが自分のためにもなる」という人間社会の法則は、ロータリアンの主要な社会活動である『職業』にも当てはまります。とかく自分の利益を追求することが職業活動であるように考えられがちですが、しかし職業は社会活動のひとつであって、他者との関係抜きに仕事はできません。他者を無視して自分だけ利益を得ようとしてもうまくいかないことは、世の中を見渡せば明らかです。

「この人と取引をして良かった」と、取引相手に思われるようなビジネスを心掛け、従業員が誇りや喜びを持って働ける環境を作り、同業者の信頼を得、一般社会からも良い評価を得られるような在り方を取ることで、すなわち職業活動の中で善意の実践を行うことがロータリーの言う『職業奉仕』です。その道しるべとなるのが『4つのテスト』であり『職業宣言』であります。

職業奉仕の実践は信用を築き、結果として正当な利益を得、仕事の発展にも繋がっていきます。世界中のロータリアンが、そのことをその歴史の中で証明しています。

奉仕と利益は両立するのです。関わる人たちに利益をもたらす(奉仕する)ことが自分の利益にもつながる、

そう考え、実践することが職業成功の秘訣であり、それはまたより良い社会の実現につながっていくのだと、ロータリーの叢智は教えているのです。

日立港RC例会「私の一言・職業奉仕について」 太田 秀夫 氏

「お客さまの お客さまは お客さま」

このたび職業奉仕委員会の副委員長を仰せつかりました太田でございます。先に、橘さんから「一言」は職業奉仕に関する事を、とのお話がありましたのでその趣旨に従って述べてみたいと思います。

先日鈴木会長からいただいた参考文献によりますと、職業奉仕に関して 100 年前にロータリーの創始者ポールハリスが「社会に役立つ人間になる方法はいろいろあるが、最も身近で効果的な方法は間違いなく自分の職業の中にある」とおっしゃっています。そこで、社会奉仕と職業奉仕はどう関わるかということを私なりに考えてみました。我々が日常仕事をしておりますと「お客さま」が重要なファクターになるわけですが、その「お客さま」というキーワードを介して考えますと、私の頭の中でもある程度回答が得られましたので、その辺をご紹介したいと思います。

私は現在、日立製作所のグループ会社に勤めております。まず一番大きなお客さまとして出てきますのは日立製作所、或いはそのグループ会社です。その次に日立製作所のお客さまは誰かということで見ますと、例えば以前に私がいました大みか事業所では、東京電力、或いは JR などがお客さまのお客さまになります。さらにもう一つ進めてお客さまのお客さまのお客さまは、ということを考えて見ますと、東京電力のお客さまは一般住民であり、JRのお客さまは一般乗客である訳です。つまりそれはとりもなおさず我々自身であり、一般社会だということです。こういう形で、お客さま、更にそのお客さま、そしてまたそのお客さまは、と辿って行くといずれは自分たちに戻ってくるのではないかという訳で、なるほど職業奉仕の行き着く先は社会奉仕につながるのだなと思に至りました。

例えば、昨日つくばエクスプレスが開業し、つくばと秋葉原が最短 45 分でつながりました。その結果、今日立地区の事業所では、東京出張の方法を JR を使わないでバスを使って、つくばエクスプレスの途中の駅につないでそこから秋葉原に行くルートだと JR よりも安くなるという話を伺っております。つくばエクスプレスを走らせる車輛は日立製作所製で、時刻通りに運行するためのシステムは水戸事業所の人たちがやっています。或いは近くの常磐線でも、先日の JR 西日本のような事故が起きないようにするためのシステムは大みか事業所の人たちがやっております。私どもはそこから仕事をいただきながら社会に奉仕している訳です。

そういうことを思い巡らせる時、ポールハリスさんのおっしゃったことは、確かにその通りだなと改めて感じた次第です。

わが事務所の職業奉仕について (株)ヤマト建設設計事務所 所長 木村 利 氏

今年度はロータリー創立 100 周年を迎え、ロータリーの原点に戻ろう、見直そうの言葉があちこちで聞かれる年であった。ロータリーの友でもこのことの記事が幾度と無く掲載されている。ロータリーの出発点は職業奉仕であり、職業奉仕を今一度考えよう、して職業倫理を再確認しようということである。ロータリーにはポリオ撲滅のような目に見える奉仕と職業道徳を守るといような内なる奉仕がある。私も常にこのようなことを念頭に置き事務所所員の教育をしていかなければと考えている。

以下、決して誇れるものではないが、私の事務所のお話を致します。

約 10 年前、世の中はバブルが弾け、低経済成長、不景気、企業は倒産、私たちの建築の設計もご多分に洩れず、毎年のように 20%ダウン、その時、私が考えたのがもし会社が解散となった場合、即、各自独立が出来るよう、社員を教育することである、と考え、方針を立てこのことを始めました。当時も今もですが 10 人のスタッフで、私を含めて 6 名の一級建築士がおります。このチーフ一人一人にお客様の担当者として全てを任せました。コンサルティングから設計契約、基本設計、実施設計、工事監理、そして外注部門との交渉、構造、給排水、電気、空調設備設計者との発注から料金の設定、支払いに至るまでの全権を与えました。3~4 年は途中、紆余屈曲もあり挫折するかと思いましたが。しかしここ 3 年、やっと本格的な自覚を持つことに成功したと思います。このことをして、良いことが何点か生まれました。

一つはお客様との結びつきがより強固なものとなり、仕事のことだけでなく、人間としてのお付き合いが生まれ、そこから信頼が生まれ、新しい仕事の依頼が出てくるようになり、営業は所長でなく全員でする形となりました。と同時に自分で取ってきた仕事ですから目の色を変えて、仕事に取り組む意気込みが違ってきます。この真剣さが良い仕事を生み出しますので、次の仕事の発注に繋がります。

二つめは、お客様との設計の契約をし、外注費の決定も自分でしますから、設計一件当たりの損益の計算も出来

る訳です。設計者の一番弱いところである、一生懸命に仕事をして終わったら赤字であった...などということもなくなりました。マネージメントが出来るようになると、お客様との工事費の約束に責任が持てるようになりました。

現在は福祉関係の仕事が多くあります。この仕事は国、県、市町村からの補助金、自己資金、また医療機構、民間市中銀行からの融資が工事費に充てられます。その辺の書類の作成から調整まで行います。担当者の責任は重大です。所長の私よりも成長するのはこの辺のところにあります。ただ、現実を見すぎて、設計者の夢を忘れるということもあります。そのために夢を持ちなさい。大きい夢を、そして次の世紀にまで通じる夢を持ちなさいと常にいっております。又、付け加えることとして、このことの実現のため、助けになったのがロータリーでした。毎週例会で仕事分担に関する打合せがあります。その4、5分を利用して、ロータリーの友の記事で読んだこと、新聞で読んだことの話をしたり、コピーを渡したりしました。連続性を持たせることによって、より有効であったと思います。そのことによって仕事をすることの喜びを感じ、お客様の為に自分の存在の重要さを感じ、自然と職業道徳を理解していくことになると思います。

3分間スピーチ 太田 達会員

太田でございます。教は職業奉仕にちなんだ話とのことで、考えてみたものの「職業奉仕とは?」「何かやっているのかな?」と難しくなっていました。今だわかっていません。そこで今日は、当社の事業継続計画に関連するお話をさせていただきたいと思います。

私の職業分類は「建設業」です。総合建設業いわゆるゼネコンと言うと、最近イメージが悪く肩身の狭い思いをしておりますが、本来は建設を通じ、お客さまやその施設を利用する人、またその地域の人々に喜んでもらうことは当然です。

その他に、大地震などの自然災害が発生した時、被災地の住民や施設の安全確保及び社会・生活基盤の保全を図ることが、当社の社会的使命でもあります。

そんな中、当社は2005年12月内閣府が示した事業継続ガイドラインに沿って社会・地域貢献・お客さまの支援を含む清水シミズ事業継続計画(シミズBCP: Business Continuity Plan)を作成しました。このシミズBCPの内容は、首都直下地震を始めとする全国の大規模地震による被害を想定。被害を軽減するための事前準備、および被災時の迅速な対応を可能にする拠点整備と、日常からの教育・訓練を重点においています。

BCPの方針

1. 従業員とその家族の安否確認、安全確保を最優先する。
2. 社会・地域に貢献するという意識を全社で共有する。
3. 被災した施設や作業所、当社利用施設などの保全を図る。
4. 保全活動に携わる従業員が自律的に行動することが出来る仕組みを構築する。

以上をもとに、現在は、社内イントラネットの中に震災対策情報として従業員およびその家族の安否確認、社員向け被災情報、緊急時対応組織など、すぐ対応出来るようになっております。

さて、PCBに関連する災害の復旧活動で最近実際にあった例をお話しいたします。

2004年の新潟中越地震で、長岡市にある酒造メーカー(久保田を作っている会社)ですが、地震でプラントなどに大きな被害がでて製造出来なくなりましたが、当社ですばやい対応をして、まもなく営業出来るようになり、大変喜んで頂きました。この中越地震では他にも多くの被害がでていましたので、当社の他支店からも応援し、多くの場所で喜んで頂けたと聞いております。

又、同じ2004年の10月頃、土浦でも大雨があり、当社のお客さんである病院の敷地の一部が、低くなっていた隣地に土砂が崩れ落ちる災害がありました。上にあった変電所も傾き、病院の治療にも影響が出るのではと心配されましたが、電話を受け、その日の内に電気の安全を確保し、翌日から土砂崩壊の復旧にあたり、安全に整備して喜んで頂きました。

これらのことは、自分の仕事を通じて行っていることで、当たり前のことですが、少しでも誰かのために貢献出来たかなと思えることが、職業奉仕につながるのかなぁと思っています。簡単ですがこれで終わらせていただきます。

10月22日(日)第21回土浦市健康まつりが行われ、当クラブも協賛し「医療相談ボランティア」を実施し、50人の相談者が訪れました。今年は一人当たりの相談時間が長く、これは相談者に親身に接した結果ではないかと思えます。ご協力頂きました医師及び会員の皆様に感謝申し上げます。



寄付金報告

米山奨学金

受付日	氏名	金額	累計(円)	受付日	氏名	金額	累計(円)
10/19	神林 正雄	30,000	930,000	10/19	小原 芳道	30,000	450,000
10/19	萩原 英彦	30,000	680,000	10/19	高木 博昭	30,000	530,000
10/19	河合 隆	30,000	630,000	10/19	鈴木 實	200,000	500,000
10/19	高木 彬	30,000	480,000	10/19	菊池 信子	30,000	330,000
10/19	福田 博	30,000	940,000	10/19	羽方 亨	30,000	(法人)360,000
10/19	臼田 八束	30,000	420,000	10/19	田中 聡	30,000	(法人)360,000
10/19	廣瀬 昭雄	100,000	830,000		計	630,000	

累計 7/1～10/19 1,390,000円

来訪ロータリアン

作山 吉永君(高萩)

にこにこBOX

10/19 32,000円 累計862,000円

- 作山君～お招き頂き有り難うございました。
- 佐藤君～作山総括委員長 卓話 有り難う。
- 磯 君～作山様 卓話有り難うございました。
- 誕生祝～小原君・堀越君・高橋君・田中君

メイクアップ

小倉(10/18 土浦中央)



10/22(日)RACとの親善ソフトボール大会
<中川球場にて>

出席報告

会員	欠席	出席	出席免除	出席率
69名	14名	55名	12名	75.44%

例会予告

11/2 「ロータリー財団月間に因んで」ロ・財団 坂本 栄委員長
11/9 会員卓話 奥井聡太郎 会員

本日のメニュー

田舎味噌仕立て おから大根汁
湯かけ鯨 おば蒟蒻 芥子酢味噌
チンゲン菜のクリーム煮
野菜添えて 鯖の立田揚
根菜炊き込みご飯